



橋本健一郎氏
九月前半はFRBのフィット
シャー副議長が九月利上げの可能性を否定しなかつたこと、
八月の米雇用統計で非農業部門の雇用者数が前月比一七万

海外銅
為替とも

米利上げやVW問題が左右へ

橋本金属
・アルミニウム

橋本健一郎氏リポート①

銅スクラップ引き継ぎでくる可能性も

輸出

◆貿易関連指標

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が四〇・八%増の六万三、七四八t、スクラップが五一・四%減の一萬二、二二四t。

輸入

輸入は電気銅が前年比八七・三%減の一、一〇六t、スクラップが〇・八%減の七、四九二t。

■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比八・一%減の五万四、六八〇t。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比一・六%減の五万三、三〇〇tであった。

■概況

【自動車生産】

八月の四輪車生産台数は六〇万四、九七四万台で、前年同月の六三万四、八三三台に比べて二万九、八五九台(四・七%)の減少となり、一四力月連續で前年同月を下回った。

八月の車種別生産台数(前年同月比)は次の通り。

乗用車五〇万九、五〇五台で二万四、三九八台(四・六%)の減少となり、一四力月連續のマイナス。このうち普通車は三二万一、〇六九台で七七〇台(〇・二%)の増加、小型四輪車は一〇万九、五九三台で一、〇一二台(〇・九%)の増加、軽四輪車は八万八、八四三台で二万六、一八〇台(二二・八%)の減少。

八月の国内需要は三三二万七、〇四九台で、前年同月比一・九%の減少であった。うち乗用車二七万台、三八六台で前年同月比三・五%の減少、トラック五万四、六二三台で同六・八%の増加、バス一、〇四〇台で同六・一%の増加。

輸出は前年同月比〇・一%の減少。(実績)

【自動車販売】

九月の国内自動車販売台数(軽は除く)は、三〇万五、八〇二台で前年比三・三%減。二カ月ぶり再びマイナス。うち、乗用車三・二%減、貨物一・一%減、バス三・七%増。

輸出は前年同月比〇・一%の減少。(実績)

【住宅着工数】

平成二十七年八月の住宅着工戸数は八万〇、二五五戸で、前年同月比で八・八%増なつた。また、季節調整年率換算値では九三・一万戸(前月比一・八%増)となつた。

利用関係別にみると、実数値では、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに増となつた。季節調整値については、前月比で持家、貸家で減、分譲住宅で増となつた。

(六面へ続く)

◆自動車生産台数
日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比四・七%減の六〇万四、九七四台であった。

◆自動車販売台数
日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比三・三%減の三〇万五、八〇二台。

◆新設住宅着工戸数
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比八・八%増の八万〇、二五五戸であった。

(四面より続く)

・住宅着工の動向については、前年同月比で六力月連続の増加となつており、昨年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響が薄れ、持ち直しているとみている。

・反動減の影響が大きかつた持家は、前年同月比で四力月連続の増加となつた。今般の経済対策等の効果が住宅着工に表れていると思われる。引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比八・一%減の五万四、六八〇tで六力月連続マイナス。このうち、内需は四万五二一〇tで七・二%減と一〇力月連続マイナス。輸出は九、四七〇tで一・四%減と五力月連続マイナス。品種別では、銅条が一万六、五一八tで一三・七%減と四力月連続マイナス、黄銅棒が一万三、四〇二tとマイナスに歯止めが掛つた。

【銅電線出荷量】

前年比一・六%減の五万三、三〇〇t。うち、国内〇・八%減、輸出が一五・四%減。部門別では、通信一二・一%減、電力五・二%増、電気機械一%減、自動車九・六%減。

【建設電販】

建設電販〇・五%増、その内需一・四%減。
【輸出】電気銅輸出が前年比四〇・八%増の六万三、七四八t。銅スクランプは五一・四%減の一萬二、一二四t。

【輸入】

電気銅が八七・三%減の一、一〇六t。スクランプは〇・八%減の七、四九二t。

【見通し】

・自動車は生産が前月に続き大減少の四・七%減。九月の国内販売台数が前年比三%減。生産が一四力月連続マイナス、期待の販売が再び一力月ぶりマイナス。生産がついに一年間以上前に割れとなつた。販売の方が一力月ぶりに再びマイナス、今後生産、販売ともにマイナスが続くか注視が必要。

・平成二十一年八月の住宅着工戸数は八万〇、二五五戸で、前年同月比で八・八%増となつた。また、季節調整済年率換算値では九三・一戸戸(前月比一・八%増)となつた。

・利用関係別みると、実数値では、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに増となつた。季節調整値については、前月比で持家、貸家で減、分譲住宅で増となつた。

・住宅着工の動向については、前年同月比で六力月連続の増加となつており、昨年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響が薄れ、持ち直しているとみている。

・反動減の影響が大きかつた持家は、前年同月比で四力月連続の増加となつた。今般の経済対策等の効果が住宅着工に表れていると思われる。引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

・伸銅品は六力月連続マイナスの前年比八・一%減。八月比では昭和五十年以来の低水準。需要の多い銅条が、四力月連続マイナス。黄銅棒が二力月連続一万五千t台割れ。輸出が五力月連続マイナスの一・四%減。伸銅品生産は輸出に支えられてきた面もあり今后の輸出動向注視。

・電線は輸出が三力月連続二桁減少。期待の建設電販のマイナス受けて全体として小幅減少。

・銅の輸出は一二〇〇～一二二二円(TTM)のレンジ内円安トレンドから地金は増加。スクランプは内需の発生難を受けて減少した。

・銅の輸入は内需の不透明感や大幅な円安に伴う割高感から大幅減少。スクランプ同様に大幅減少した。

【スクランプ需給予想】

流通在庫は、前半は電気銅建値が六七〇円から七〇〇円まで上昇した過程で在庫分が放出された。伸銅品生産の低調に伴う発生薄のトレンドは変わらないが、メーカーもさすがに原料不足から需給は引き締まつてくるのではないか。

【価格・為替予想】

・今は、VW排ガス規制不正問題、そして米国利上げ問題に左右される。

VW社の排ガス規制不正問題は一部報道によればBMW社まで普及する可能性、またアメリカだけの不正だけではなく他国での不正の可能性もあり現在も調査が続いている。仮にこの問題が長引けば欧州経済全体を揺るがしかねない問題だけに注視している。

米利上げ時期に関しては、十月説は、米経済指標は堅調ではあるが、中国バブル崩壊の機運が高まる中、今行う可能性は低いのではないか。それらを踏まえた十月の銅価格は、VW社とGAS不正問題が現状から広がらず、米当局との話し合いで付き制裁金等の支払いが終了し、米国が今月の利上げを行わなかつた場合、九月高値一段高の五、四〇〇ドルを予測。いずれかの場合は五、一〇〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかつた場合もう一段安値の四、八〇〇ドル。

・為替は、米FRBの利上げについて新たに十月説が台頭しているが、中国バブル崩壊の機運が高まる中、今月行われる可能性は低いのではないか。それらを踏まえ予測は、上値はアメリカが十月の利上げを行つた場合、中国バブル崩壊が早まる事や新興国からの資金吸い上げ、それに伴うドル高の加速判断から大幅円高の一八円台を予測。下値は利上げを行わなかつた場合ほぼ現状と変化なしとの判断から一二〇円台。

・銅建値に関しては六六〇～七六〇円程度と予測している。